



中国の民話 / 訳 君島久子

イラスト カトウソウ(ピースリーピース)

それは、いつのころか、てんで

見とうもつかないほどの大むかし。

中国のある村に、年よりのふうふが、

すんでいました。

二人は、

おばあさん「子どもがほしい、ほしい」

とおもっていましたか、

すっかりこしがまがっても、

まだ子どもは生まれません。

ある日、おばあさんは、あんまりさびしいので、

いけのほとりで一人、なっていました。

すると、いけの中から

白いかみのろう人があらわれて――

ろう人「このくすりをあげよう。

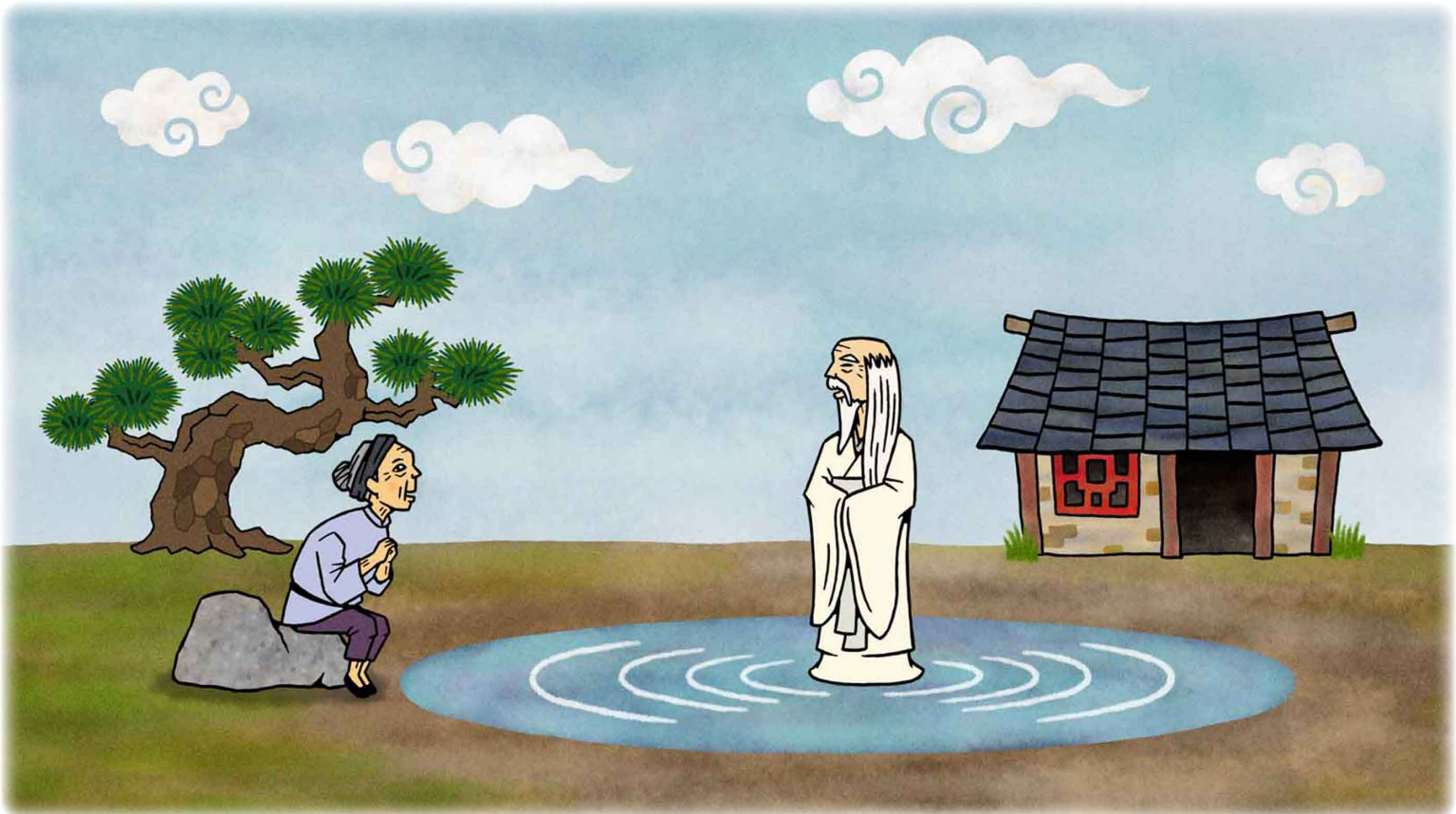
一つぶのむと、

子どもが一人

生まれる。」

と、くすりを

九つぶくれました。



おばあさんは、うちにかえると、  
もうまちきれなくなつて、  
くすりをいっぺんにのんでしまいました。

(びっくん)

すると――、

(オギャー、オギャー！)

ある日、とつぜん、

九人の赤んぼうが生まれたのです。



ついた名まえは、

「ちからもち」

「くいしんぼう」

「はらいっぱい」

「ながすね」

「さむがりや」

「あつがりや」

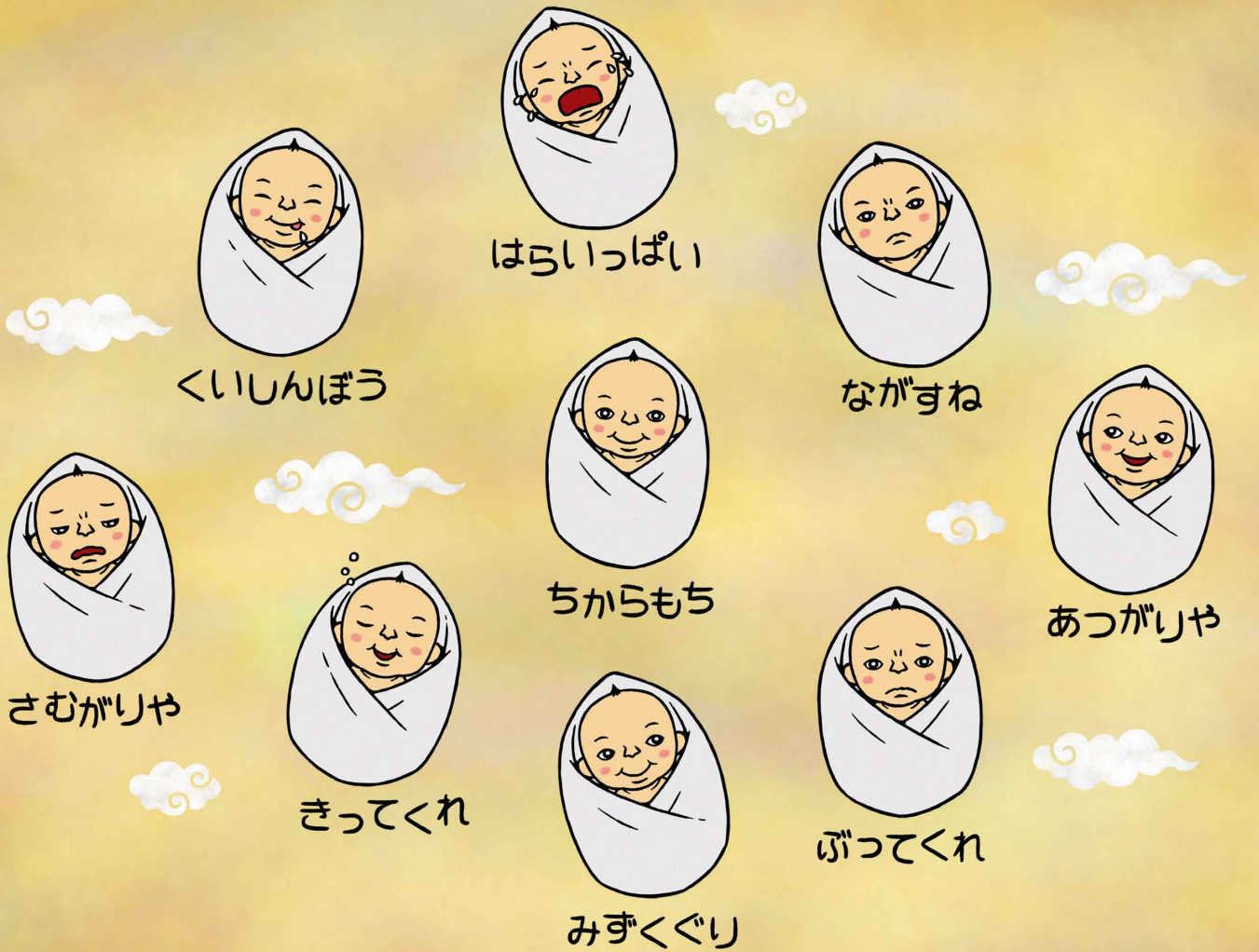
「ぶつてくれ」

「きつてくれ」

「みずくぐり」

さて、この九人のきょうだい

はおも、からだつきもそっくりに大きくなりました。



ちようどそのころ、  
みやこでは、大へんなさわぎが  
もち上がりました。

(びーん)

王さまのきゆうでんの  
ーばん大きなはしらが、  
とつぜん、  
たおれてしまったのです。

そこで、王さまは、  
くにおふれを出しました。

王さま「はしらをもとどおりにできたものには、  
のぞみのほうびをとらせる。」



このはなしは、九人のきょうだいの  
うちにもつたわってきました。

そこで、きょうだいたちは、そうだんしました。

きょうだい1「どうする、ほうびだつてよ！」

きょうだい2「のぞみどおりのほうびつて、

どういうこと？」

きょうだい3「いろんなものがもらえるつてよ！」

きょうだい4「なにたのんでもいいの？」

きょうだい5「どうしよう。だれがいく？」

きょうだい6「ちからもち、いつてくれ！」

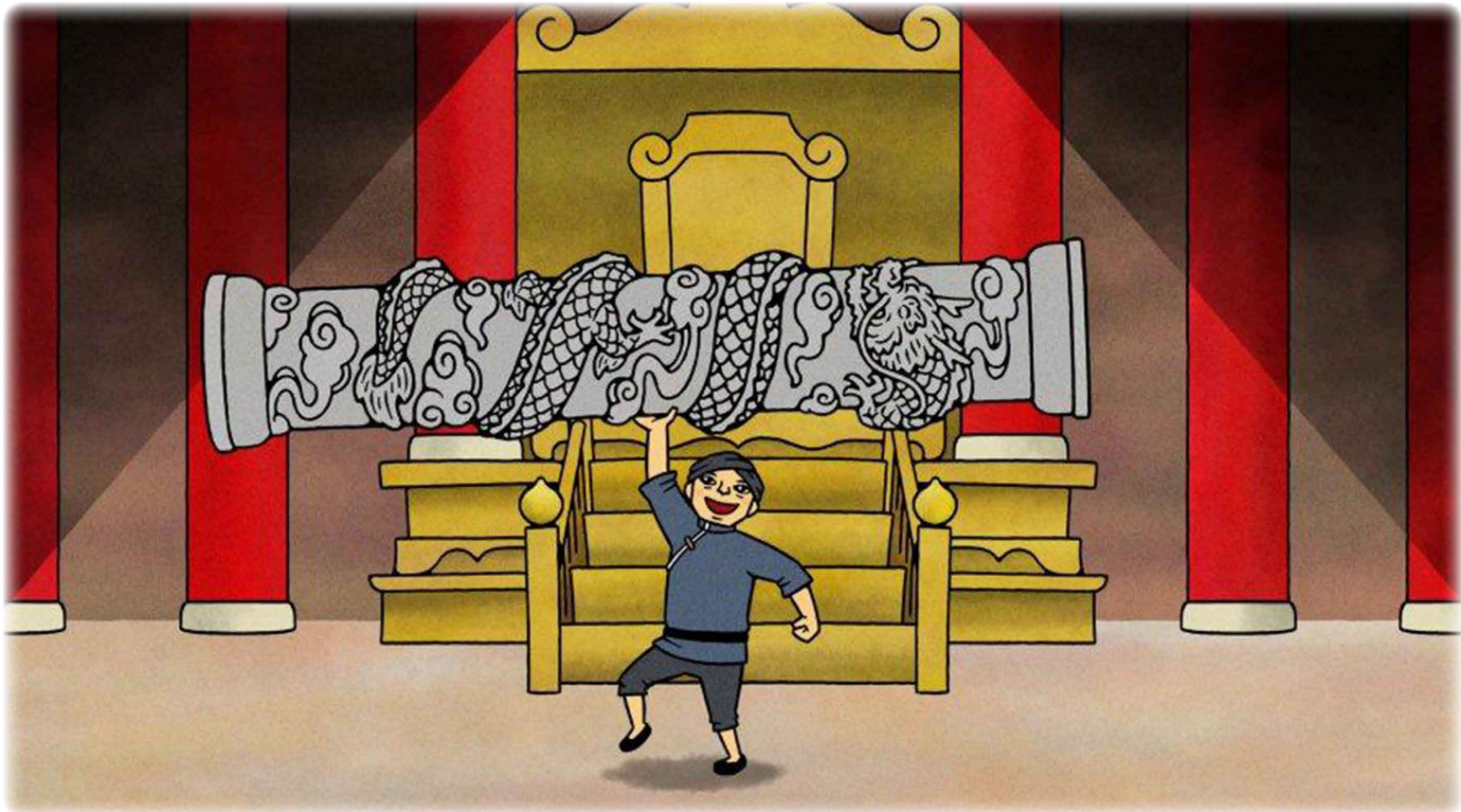
ちからもち「よしきた！」



ちからもち

ちようど、よ中にちからもちは  
きゆうでんにつきました。

そして、はしらをひょいっともち上げ、  
もどごおりになおして、かえっていきました。





あくるあさになって、

王さまは、おどろいたのなんの、

王さま「いったい、だれがなおしたのじゃ!？」

ところが、九人きょうだいの一人が

なおしたときいても、王さまはしんようしません。

王さまは、大きなおかまをいくつもすえて、

ごはんをいっぱいたかせました。

王さま「もし、そのような力もちなら、

きつと、これくらいの大めしが

くえるはずじゃ。」



王さま「だが、たべられなければ、大うそつきのばつとして、

ろうやにぶちごめ!」

このはなしをきくと、

きょうだいたちは、またそうだんしました。

きょうだい1「どうする、ろうやだつてさ!」

きょうだい2「え、ろうや?そんなばかな!」

きょうだい3「そんなわけにはいかないでしょ、

こっちはなおしたのに。」

きょうだい4「どうしよう、べつじょう?」

きょうだい5「くいしんぼう、いつてくれ!」

くいしんぼう「よしきた!」



くいしんぼう

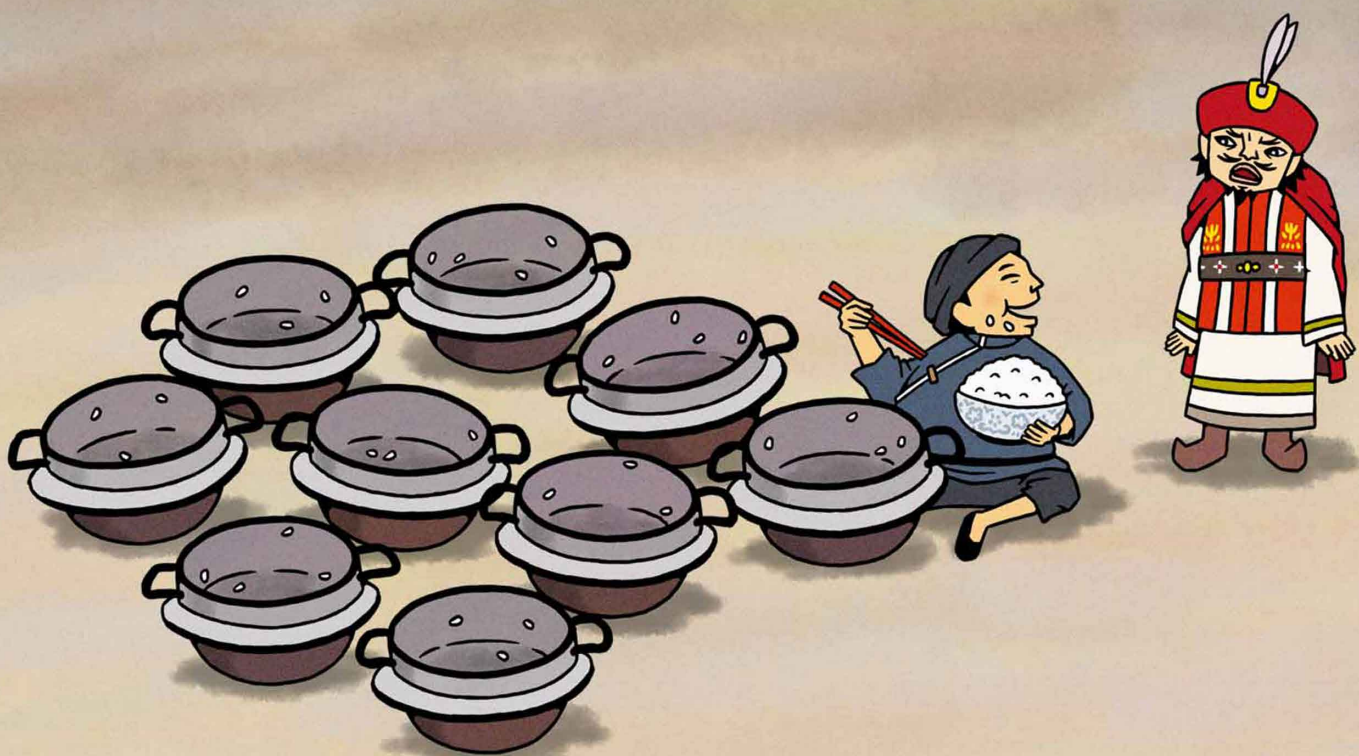
くいしんぼうは、きゆうでんにつくんと、

くいしんぼう「ムシャムシャ、パクパク…」

大きなおかまのごはんを

ペロりとぜんぶ

たいらげてしまいました。



王さまはだんだんこわくなってきました。

王さま「あんなに力もちで

大めしくらいの男なら、

いまにきつと、わしをたおして、

このくにの王になるにちがいない。

なんとかして、やっつけなければ…」

そこで王さまはめいれいしました。

王さま「やつをつかまえてきて、

うえじにさせよー!」



きょうだい1「どういうこと？」

うえじにだつてさ！」

きょうだい2「うえじにっつて、

うえてしぬつてこと？」

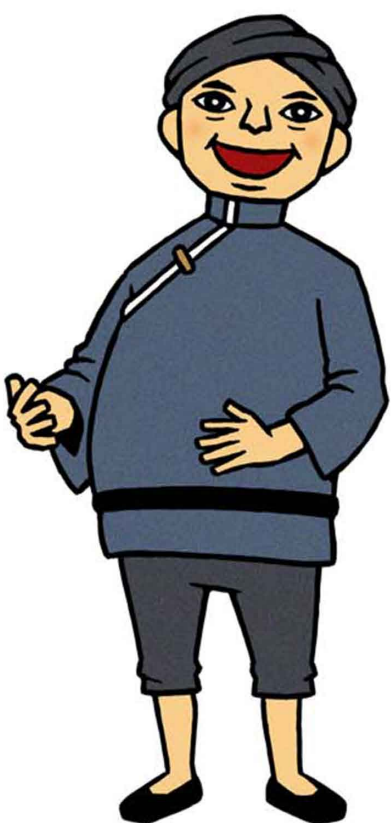
なにいつてんの、あの王さま！」

きょうだい3「どうする？どうする？」

きょうだい4「そうだな…そうだ！」

きょうだい5「はらいっぱい、いってくれ！」

はらいっぱい「よしてきた！」



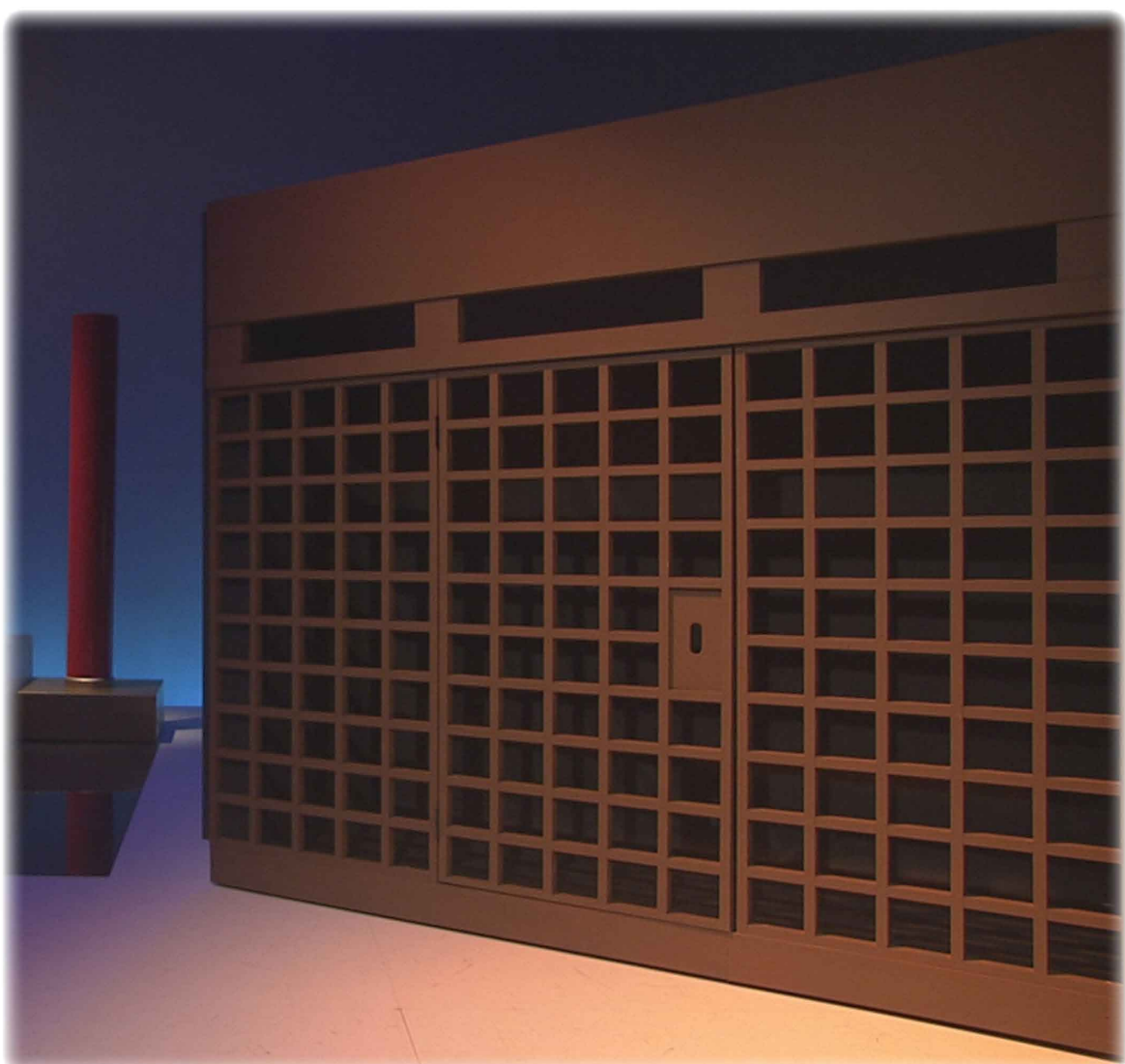
はらいっぱい

王さまは、はらいっばいをすぐさま  
ろうやにとじこめました。

（ボタン！ ガチャリ。）

そして、七日七ばん、

なに一つたべさせませんでした…。



(チュン、チュン)

8日目のあさでした。

王さま「もう、あいつももうえじにして

しまったことだろう。

わっはっは。どれ…。」

(ガチャリ！ ギー！)

王さま「うわっ！」

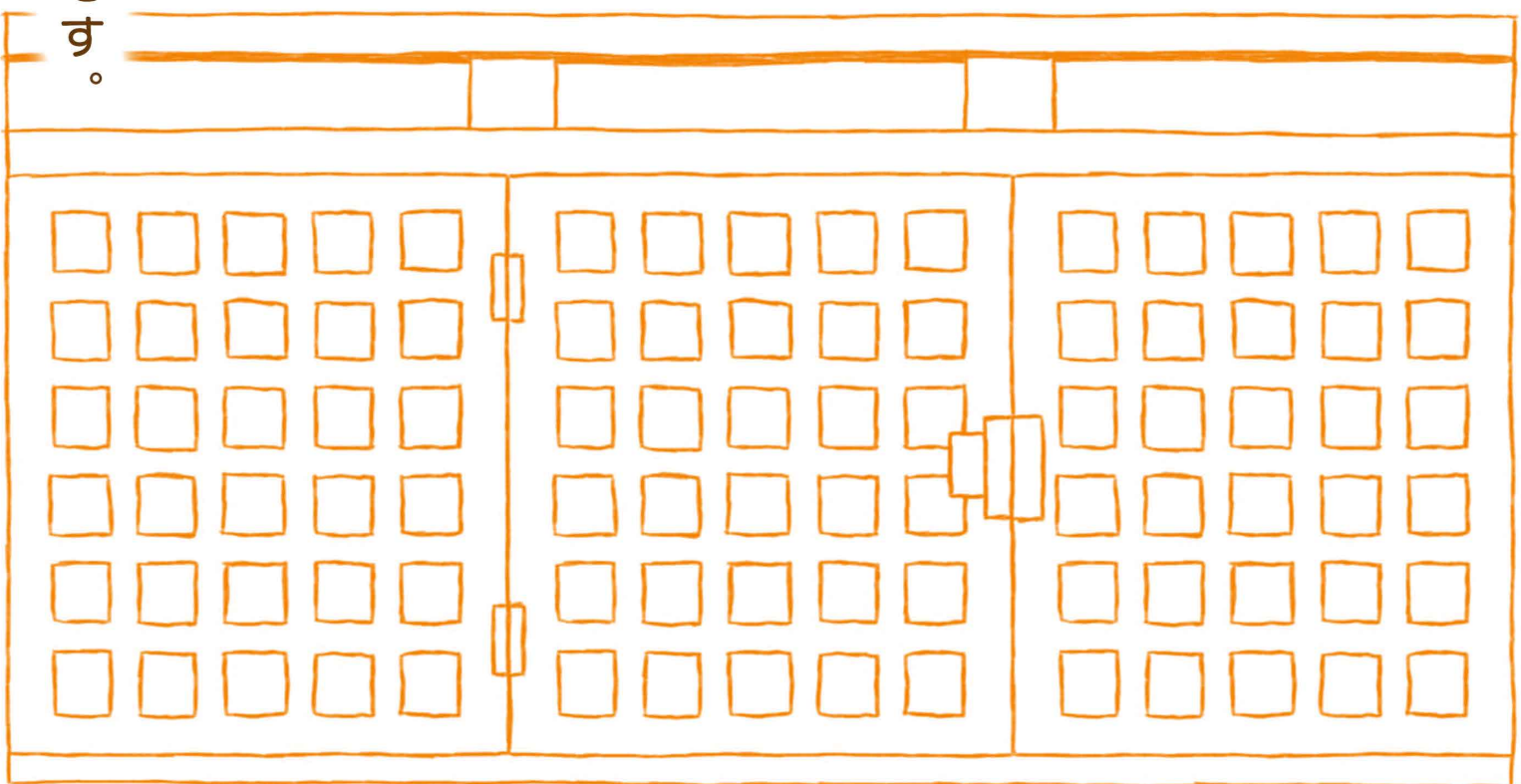
はらいっぱい「あゝあ、

ものをたべないおかげで、

いい気もちだった。」

はらいっぱいは、

まえよりもとげん気なようすで出てきたのです。



王さまはますますふあんになりました。

王さま「そうだ、やつを、

たかい山のとっぺんから、

つきおとしてしまえー！」

きょうだい1「たかいところってどういうこと？」

きょうだい2「たかさってこと？ねだんじゃなくて？」

きょうだい3「たかいところだったら、いける！」

きょうだい4「じゃあ、おまえいこうか！」

きょうだい5「ながすね、いつてくれ！」

ながすね「よしきた！」



ながすね



(チューー ヒュー)

ながすねは、すぐさま、

いわ山のとっぺんに

つれてゆかれました。

そして、きり立つような

がけの上から、

どんとつきとばされました。

(チューーン)

そのときです。

ながすねのすねが、

しゅうつとのびて

たにぞこまでとどいて

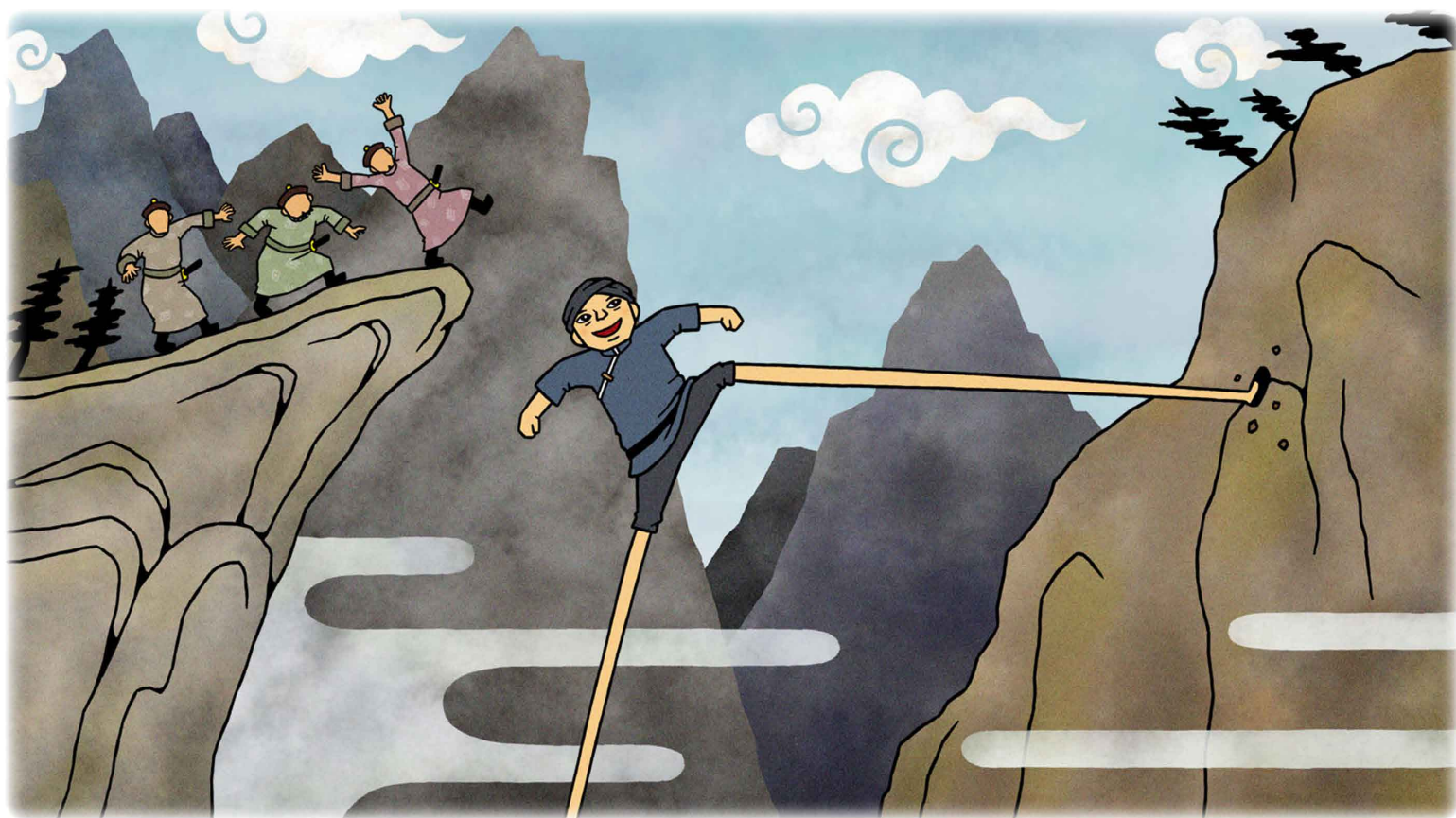
しまったのは…！

こうして、王さまは

またしっぱいしました。

こわくて、こわくて、王さまはまったく  
ねむれません。

これはもう、なんとしてでもこの男を  
やつつけなければ…とかんがえました。



♪王さま「やつをやきころしてしまえ！」

♪と、王さまがめいれいすると、

♪やってきたのはさむがりや。

♪ほのおの中でもやされた。でも…

♪さむがりや「ああ、あったかくて

いい気もち！」

♪とうとうたきぎがもえつきた！

♪王さま「やつをごえじにさせよ！」

♪と、王さまがめいれいすると、

♪やってきたのはあつがりや。

♪ゆきの中にうめられた！…でも、

♪あつがりや「ああ、つめたくて

いい気もち！」



あつがりや



さむがりや

♪とうとうゆきがとけだした！

ぶつてもダメ、きつてもダメ、

きようだいたちのまえに、

王さまのけいかくはことごとく

しっぱいします。

王さまは、かんかんになってめいれいしました。

王さま「やつをひつとらえて、

大きな川へほうりこんでしまえ！」



きょうだいたちは、またそうだんしました。

きょうだい「みずくぐり、いつてくれ！」

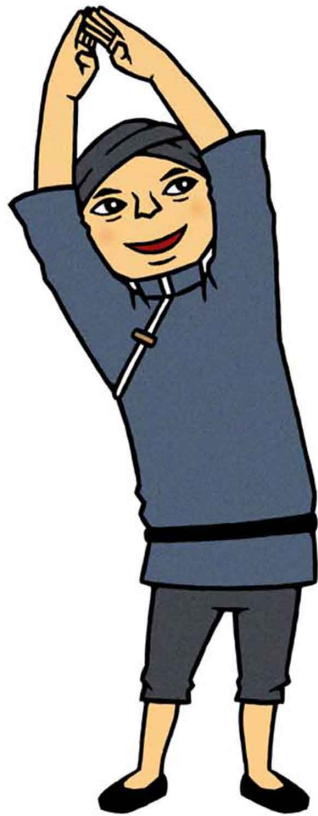
みずくぐり「よしきた！」

みずくぐりは、

川におとされると、

まるでさかなのように

およぎまわります。ス〜イ、ス〜イ。



みずくぐり

そして、ロいっばい」

川の水をふくんだかとおもうと、

みずくぐり「ぶうーっ！」

王さまは、水の力で

とんでいってしまいました。

この日から、人びとは

王さまからひどいしうちをうけることもなく、

たのしくへいわにくらしたということなのです。



お  
わ  
り